



学校だより

小松川第二小学校
校長 五十嵐 一嘉

人に良いと書いて「食」

校長 五十嵐 一嘉

令和6年も最後の月を迎えます。学校の年の区切りは年度末ですが、12月は一年を振り返り、新たな目標を定めるといった活動にも取り組んでいきたいと思えます。

さて今月のタイトルの「人に良いと書いて 食」という言葉は、学校法人栄養専門学校の理事長・校長を務めていらした、服部幸應さんが好んでつけていたものです。残念ながら服部さんは今年10月4日にお亡くなりになりました。

服部さんは明治以来続いてきた日本の教育「知育、徳育、体育」に「食育」を加える必要性を長年説いていました。自ら国に働きかけた結果、2005年に「食育基本法」が制定されました。また服部さんは農林水産省の「食育推進会議」の委員や「食育推進評価専門委員会」の座長として活躍されました。

令和6年9月30日付の「政府広報オンライン」に食育についての記事が載っていました。その一部を抜粋して紹介します。

食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎と位置付けられるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てるものです。

こうした「食育」がいま重要とされる背景には、近年、食に関連した様々な課題が浮上していることがあります。

例えば、栄養の偏りや不規則な食事などによる肥満や、それらが原因と考えられる生活習慣病の増加がみられます。また、若い女性を中心のみられる過度のダイエット志向に加え、高齢者の低栄養傾向等の健康面での問題も指摘されているところです。

また、食の安全や信頼に関わる問題や、外国からの食料輸入に依存する問題など、食を取り巻く環境が大きく変化しています。こうした中で、食に関する知識を身に付け、健康的な食生活を実践することにより、心と身体の健康を維持し、生き生きと暮らすために、食育を通じて、生涯にわたって「食べる力」＝「生きる力」を育むことが重要になっているのです。

本校では、昨年度の2学期から家庭への配布物の多くは、電子データでの配信としました。給食の献立表についても当初データ配信としましたが、今年度からは、再度紙ベースでのお知らせとしました。児童に給食の献立に興味をもってもらいたい、食材や料理名を知ってもらいたいという思いからの変更でした。

また11月12日（火）にはPTA主催の「給食試食会」を久しぶりに実施することができました。約50名の保護者の方にご参加いただきました。

今後も様々な手立てを考え、児童の「食育」を進めていきたいと考えています。